

近況報告

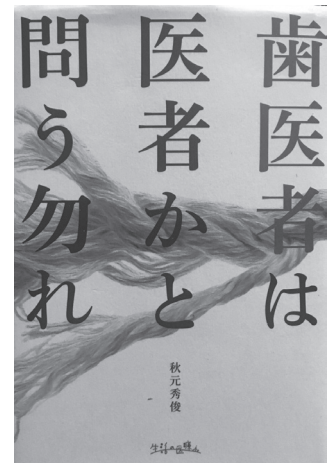
本の紹介

『歯科医は医者かと問う勿れ』 著者 秋元秀俊

この物語は日大歯学部 建学の祖、佐藤運雄先生の伝記とも言えますが、歯科医師が医師とは別にどのように成立したのか、そしてなぜ医学から歯科医学が独立分化することになったのか。

東大に歯学部がないのは何故なのか。等々、私たちの疑問に対する答えが明確に歴史的流れを含め書かれています。

100年も前に「歯科医師こそはプライマリケア医でなければならない」と言及した佐藤先生。「口腔は全身を写す鏡」という言葉と「医学的歯学」という志のもとに、私たち日本大学の歯学部、松戸歯学部は佐藤運雄先生の理念を引き継いでいます。同窓の皆さんにぜひ読んでいただきたいと思えます。



『小説「8050」はち・まる・ごー・まる』 著者 林 真理子

父さんと死のう 引きこもり、いじめ、家庭内暴力……あなたの家庭も無縁ではられない

本の朱い帯に書かれているこの言葉、あまりにも重いテーマである。それなのに手に取ったのは主人公が歯科医師で有る事に加えて、今年5月発行の林真理子理事長の小説であったからである。読んでみるとどんどん小説の中に引き込まれ、その展開にドキドキする。自分にも息子がいる。中学高校は子育てでヒヤヒヤさせられた。今でも親は親、子供は子供でその関係は一生変わることはない。常にしっかりとお互い向き合っていないと、「しまった!」と思う瞬間もある。「あなたは家族としっかりと向き合っていますか?」そう自問自答したくなる1冊である。



文責 古谷由美子